

1. 「第8回 炉物理部会」総会報告

第8回「炉物理部会」総会が、沖縄コンベンションセンター・沖縄ハイツで開催の「原子力学会 1997 年秋の大会」の第3日('97/10/16)に開かれた。当日の主な議事、報告事項を以下にまとめる。

1-1 炉物理部会運営委員会の報告(委員長 平川直弘/東北大)

(1) 第7回総会において、炉物理部会運営委員会での検討に一任された「PHYSOR96 からの寄付および古橋基金の使途」についての結果が報告された。

(ア) 夏期セミナーへの若手参加助成金

若手の夏期セミナー参加への援助に、毎年 30 万円程度を上限として支出する。

なお、本運用は、平成9年度から開始する。

(イ) 運営委員会の開催費

炉物理部会運営委員会の開催費用(会場使用料等)への支出に充てる。

(ウ) 若手研究者を対象とした賞の創設について

成田委員の報告を元に若手研究者への賞の創設について検討したが、部会独自に運営するのは難しい面が多いことが報告された。

(エ) 部会ホームページ作成とそのためのパソコン購入

部会ホームページ(平成9年10月から試験運用開始、学会ホームページ(<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/aesj/>)にリンク)を開設する。また、ホームページ作成に必要なパソコン(ノートタイプ)を購入する。

(オ) 部会主催の懇親会開催について

小林委員より、部会の活性化を図る目的で、学会時に「部会主催の懇親会」を開催し、若手に補助をする案が出され、話し合われた。結果として、次回学会時に試行

してみる方向で検討する事で一致した。この検討及び試行時の世話人を小林委員及び北田委員(若手小委員会)が行うこととなった。

項目(ア)、(イ)、(エ)については、本総会に於いて、拍手でもって了承された。

また、項目(ウ)については、今後更に運営委員会で検討することとなった。

(2)部会セッション

部会セッションについての検討を行い、1997年秋の大会では「最近の炉物理国際ベンチマーク計算」、1997年春の年会では「中性子寿命に関する討論会」を企画していることが報告された。

(なお、運営委員会の議事録は、炉物理部会ホームページを参照)

1-2 平成10年度運営委員候補者の紹介

平成10年度運営委員候補者が検討中であり、本ニュースを通して検討中の候補者を予め部会員に周知することが報告された。

以下に候補者(敬称略)を示す。なお、括弧内は予定任期である。括弧内は任期を示す。

部会長(1年)	北 大 成田 正邦
副部会長(1年)	アイテル 青木 克忠
庶務幹事(1年)	北 大 沢村 晃子
財務小委員会(1年)	九 大 工藤 和彦(留任)
(2年)	日 立 三田 敏男

編集小委員会(1年) 日立 丸山 博見(留任)

(2年) 近畿大 橋本 憲吾

(1年) 東北大 岩崎 智彦(部会ホームページ担当)*

セミナー小委員会(1年) 東芝 川島 正俊

(1年) 未定

学術研究交流小委員会(1年)京大 小林 啓祐(留任)

(2年)原研 大杉 俊隆

学生・若手小委員会(1年)阪大 北田 孝典(留任)

(2年)原燃工 伊藤 卓也

*:部会ホームページが本格的に運営されるまでの暫定処置として新設された。

(なお、委員の常設及び任期等は、今後、相談によって決定する予定である)

1-3 炉物理夏期セミナー

(1)第29回炉物理夏期セミナー(鬼柳善明/北大)

第29回炉物理夏期セミナー(7/28~7/30、NTT北海道セミナーセンターで開催、63名参加)の会計報告が行われた(別添参照)。

(2)第30回炉物理夏期セミナー(川島正俊/東芝)

第30回炉物理夏期セミナーについての構想が紹介された。

日時:平成10年7月下旬から8月上旬

場所:神奈川県

テーマ・場所等については検討中であり、次期総会において、詳細な概要が報告される。

1 - 4 学会委員会からの報告

(1) 企画委員会(山本宗也 / 東芝)

・学会会員数が減少しており、会員数増加に向けてワーキンググループを設置した。

・今後の学会開催は、近大(3月26～28日)、福井工大(予定)である。

(2) 編集委員会(岩崎智彦 / 東北大)

・英文誌への投稿に関して、TEX format による提出が可能となった。将来的には、TEX format による提出の場合、投稿費の減額することが検討されている。

・和文誌の特集記事については、部会との連携を強めていく方向で検討されている。

1 - 5 その他

(1) KUCAの維持費復活に関する要望書について

(代谷誠治 / 京大炉 & 平川直弘 / 東北大)

KUCAでの維持費が平成9年度を最後に打ち切られる報告があり、炉物理部会から同装置の維持費復活に関する要望書を提出する旨の提案があった。提案に先立ち、打ち切りまでの経緯について報告が行われた。本件に関して、「本部会以外(例えば、原子力学会)からも要望書が提出されるべきである。」等の意見が出た。要望書の文案については、委員長が作成することになった。

(2) 炉物理部会ニュースの送付について(岡嶋成晃 / 原研)

炉物理部会ニュースについて、部会ネットワークを通してE-mailによる送付(但し、アドレスのない会員には郵送)と、部会ホームページでの公開が検討中であることが、報告された。その一環として、試験的に、部会ニュースをE-mailによる送付と郵送の併用で、当分の間実施することが報告された。また、このE-mail送付の充実を図っていくために、会員各位からE-mailアドレスを庶務幹事または編集小委員へ送付するよう協力が求められた。